

## 新聞を活用し情報を読み取る力をつける

横須賀市立鴨居小学校教諭 白井 淑子

### 1 「読書」の対象を広げ、「新聞」で情報活用能力を

子どもたちの国語力の向上を考えるうえで、近年特に、読書活動・読書指導に焦点が向けられてきている。これは、「これからの時代に求められる国語力について」(文化審議会答申 平成十六年)や「読解力向上プログラム」(文部科学省 平成十七年)などの提案によるところが大きい。これらの報告は、いずれも学力向上のために「読書活動」を推進する必要性を訴えており、その際に文学的文章だけでなく、新聞や科学雑誌を含む幅広い範疇の読み物に親しむことを推奨している。

また、情報化社会に生きる子どもたちには、いわゆる情報活用能力の育成が今まで以上に求められる。情報を受信し、速やかに処理・判断する能力、必要な情報を取捨・選択する能力、情報を吟味・検討する能力、そして情報を再構成して発信し、他者とコミュニケーションするまでの一貫した能力の育成である。このような能力は情報教育だけで育成するものとせず、国語科でも十分配慮し関連づけて指導していきたい。

このとき、「読むこと」を広い意味で解釈し、「情報を読み取る学習」と考えると、図書(書籍)はもちろんのこと、雑誌、目的や考えがあることに気づかせ、子どもたちの認識をさらに深めたいと考えた。

そこで、導入に新聞写真のよみ取りと見出しを考える活動を取り入れて、『アップとルーズで伝える』を理解しやすくし、『四年三組から発信します』では取材内容を学校内や地域にあるものだけでなく、新聞記事から興味をもった事柄も含め、情報を収集し、再構成して発信することとした。補助教材として資料1「少年は何を思う」(朝日新聞13版 2004.5.19)と資料2「モハマド君はまだ大勢います」(朝日小学生新聞 2004.5.19)を扱った。

資料1の写真を手がかりに、いろいろな情報を見つけ、気づいたことを自由に話し合い、その写真の伝えたいことを考える。

キャプションを省いて提示した資料1は、一見すると「サッカーする男の子」としかとらえられないが、写真をよみ取り、考え、話し合っていくと、その写真を選んだ発信者の意図がわかってくる。よみ取ったことの話し合いでは、「後ろで炎が上がっているのにサッカーをして逃げていないから、この子は火事や事故に慣れているんだ。男の子や背景の様子から、バグダッドの男の子に違いない」というような意見が出され、「遊び場がなく、危険と隣り合わせのバグダッドの子どもたちは、そんな中でも一人で遊んでいる。子どもに安全や平和をあげたい」

新聞、テレビ・ラジオ、インターネットなど多様なメディアの活用が考えられる。中でも新聞は入手しやすく、社会性も高いので、活用を工夫したい。そこで、教科書の教材に加えて新聞を活用した学習の実践を述べてみたい。

### 2 単元「二 材料の選び方を考えよう」(四下)の実践

「三 伝えたいことをはっきりさせて書こう」(四上)で新聞への興味・関心をもった子どもたちであったが、記事を読むことよりも写真を見ることに関心が高かった。しかし、写真の意味や送り手の意図をよむという段階には達していなかった。

「一 材料の選び方を考えよう」は説明的文章『アップとルーズで伝える』を読み、そこで得たアップとルーズの手法を生かして、情報を取材して伝える単元である。『アップとルーズで伝える』の学習目標は、段落のつながり方に気をつけ、まとめりとその役割をとらえることである。その中で「アップ」と「ルーズ」の特徴を正しく読み取った子どもたちは、何気なく見ているテレビ画面には伝え方の工夫があることを改めて知る。そして、一画面であっても、そこには番組制作者(発信者)の

ことを伝えたかったから、この写真を選んだのだ、というまとめになった。

資料2を読んで、大事などところに線を引き、内容をまとめ、見出しを考える。

子どもたちが考えた見出しは手術の成功に関わるものが多く、戦争に関わるものは少なかった。多くの子どもたちの意識は、モハマド君の写真や手術が成功して退院した内容に集中し、この記事が伝えられた主題に至らない。しかし、「記事にイラクの子どもへの援助の願いが書いてあって、リードの最後に『モハマド君はまだ大勢います』と書いてある」という発言をきっかけに、発信者がイラクの子どもたちの窮状を伝えなかったことを読み取っていった。

### 3 子どもたちが「新聞」になじみ親しむことから

『続けてみよう』(五上)には新聞記事を選んでスピーチする単元が組まれており、その後、朝の会などでスピーチ活動を取り入れると、子どもたちは新聞の情報を意識するようになる。『人と「もの」とのつき合い方』(五上)の題材である環境問題は、新聞に日々取り上げられているので、継続的に収集した切り抜きを活用していくと効果的である。

見出しや文章、写真、図表など、さまざまな要素が含まれている新聞は、情報を読み取る学習に適し、PISA型読解力の育成にも役立つと考ええる。まずは、子どもたちが新聞になじみ親しむことから始めたい。

